

日本産海外有望農林水産品目調査研究報告書
～ブルネイ市場における日本産植木の可能性～

2017年3月

日本貿易振興機構（ジェトロ）

農林水産・食品部 農林産品支援課

【免責条項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。

はじめに

ジェトロでは、平成 28 (2016) 年 5 月に定められた「農林水産業の輸出力強化戦略」に基づき、平成 31 (2019) 年までに農林水産物・食品の輸出額 1 兆円水準を目指すという政府目標の達成に向けて、取り組みを進めている。

花きにおいては、平成 31 (2019) 年までに「植木・盆栽・鉢物・切花」の輸出額 150 億円を目標に、オールジャパンでの取り組みが行われている。しかし平成 25 (2013) 年の約 96 億円を境に花き輸出額は減少傾向であり、平成 28 (2016) 年の輸出額は 87.5 億円に留まっている。

減少要因の一つとして、「植木等 (植木・盆栽・鉢物)」の輸出額の減少が挙げられる。

花きの輸出額の構成は、その 9 割以上を「植木等」が占めており花き輸出を牽引している。しかし「植木等」の輸出額は平成 25 (2013) 年の 94 億円をピークに平成 28 (2016) 年は 80 億円 (農林水産省輸出入情報) と減少傾向にある。植木等の輸出額は、商品単価が高い植木の輸出額が多くを占めるとみられており、植木等の輸出額を拡大していくためには植木の輸出減少を食い止め、拡大していくことが政府目標の達成には不可欠である。

日本の植木は職人の優れた造形による芸術性と高い品質が評価され、日本からの距離が近い東南アジア諸国を中心に、高額なものでは数千万円の植木が現地の富裕層に購入されている。一方、平成 28 (2016) 年の農林水産省輸出入情報では、「植木等」の輸出額 80 億円の半分以上が中国 (約 45 億円) で占められ、次いでベトナム (13 億円)、香港 (7 億円) の順位となっており、輸出構造は中国に偏重している。また中国を中心としたアジア諸国への輸出額も年々減少している。そのため、新規輸出国の発掘が課題となっている。こうした現状の中、東南アジア諸国の中で唯一日本からの植木等輸出の実績のない国がブルネイである。

ブルネイは、三重県とほぼ同じ面積で人口約 41 万人と小さな国ながらも、豊富な天然資源を背景に、国民 1 人あたりの名目 GDP (2015 年) の比較では、日本と同レベルの富裕国であり、距離の近さと経済力から日本産植木輸入の可能性を持つ国と考えられる。そのブルネイにおける植木の現状、ニーズを明らかにし、日本産植木の輸出の方向性を示すことを目的として調査を行い、その結果を取りまとめた。本調査報告書が日本産植木の新規輸出国拡大の参考となれば幸いである。

2017 年 3 月

日本貿易振興機構 (ジェトロ)
農林水産食品部 農林産品支援課

目次

【調査結果の概要】	1
1. 基礎情報	2
1－1 ブルネイの基礎データ	2
1－2 日本産植木等の輸出の現状	8
2. ブルネイの観賞用植物流通状況等の実態	12
2－1 ブルネイの観賞用植物の輸出入の概要	12
2－2 ブルネイ国内の植栽	17
2－3 ブルネイの植木等マーケット	24
3. ブルネイへの輸入のプロセス及び要件	28
3－1 植物の輸入プロセス	28
3－2 植物の輸入要件	30
4. ブルネイにおける日本産植木の輸出の可能性	32

図表一覧

- 図 1-1 ブルネイ位置図
- 図 1-2 ブルネイ・東京月平均降水量
- 図 1-3 ブルネイ・東京月平均気温
- 図 1-4 ブルネイ人口推移（2011年-2015年）
- 図 1-5 ブルネイ年齢別人口分布（2015年）
- 図 1-6 ブルネイ人種別人口分布（2015年）
- 図 1-7 ブルネイ名目 GDP（1人あたりの名目 GDP）の推移（2011年-2015年）
- 図 1-8 ASEAN各国1人当たりの名目 GDP（2015年）の比較
- 図 1-9 ブルネイの2015年輸入額（国・地域別の内訳）
- 図 1-10 ブルネイの2015年輸出額（国・地域別の内訳）
- 図 1-11 日本花き輸出金額の推移
- 図 1-12 日本産植木等輸出金額の推移（2012年-2016年）
- 図 1-13 日本産植木等の2016年輸出額（国・地域別の内訳）
- 図 1-14 日本産植木等アジア4カ国輸出額合計の推移（中国・香港・ベトナム・台湾）
- 図 1-15 一般的な植木輸出の流れ
- 図 1-16 港間の輸送日数目安
- 図 2-1 ブルネイ観賞用植物出荷量の推移（2011年-2015年）
- 図 2-2 ブルネイ観賞用植物出荷本数ベース自給率（2015年）
- 図 2-3 ブルネイ観賞用植物 出荷本数と輸入割合の推移（2011年-2015年）
- 図 2-4 ブルネイ植木等輸入額の推移（2013年-2015年）
- 図 2-5 ブルネイ及び周辺国の一人当たりの植木等輸入額比較（2015年）
- 図 2-6 ブルネイ植木等の輸入 国・地域別の内訳（2015年）
- 図 2-7 ブルネイの観賞用植物の生産状況（2015年）
- 図 2-8 ブルネイに輸入されている観賞用植物の上位10品目（2015年）
- 図 2-9 ブルネイ関税率
- 図 3-1 ブルネイ入国前の輸入プロセス
- 図 3-2 ブルネイ入国時及び入国後の輸入プロセス
- 図 3-3 ブルネイにおける観賞用植物の輸入要件・検査の内容（まとめ）

【調査結果の概要】

ブルネイは、三重県とほぼ同じ面積で人口は約41万人と小さな国ながらも、豊富な天然資源を背景に、国民1人あたりの名目GDP（2015年）の比較では日本と同レベルの富裕国である。

これまでに日本産植木の輸入実績はないが、日本産植木輸出先（金額ベース）第2位のベトナムのホーチミンと、日本からの直線距離はほぼ同じであり、輸送距離の近さと富裕国であることから高価な日本産植木の輸入可能性を持つ国である。

ブルネイの視察を通じ、観賞用植物に関して国民は、樹種や造形にこだわるというよりは、花や果実などで樹木の楽しみを実務的に享受している印象を受けた。自生している樹木の種類も多く、日本の植木輸出の有力樹種である「マキ」や「カイヅカ」は類似種がブルネイにもあり、現地で高価格の日本の造形植木が即受け入れられる可能性は低いと考えられる。ただし、現地の高級ホテルの日本庭園向けには、日本の造形植木の輸出可能性が認められた。

今後、ブルネイ向けの輸出に関しては、短期的には高級ホテル等の日本庭園ニーズの把握、中長期的には現地事業者と共同での「日本産造形植木」に関するニーズ掘り起こし、ブルネイで最も人気のある総合展示会への植木事業者の参加といった工夫が有効であると考えられる。

1. 基礎情報

本章では、ブルネイ・ダルサラーム（以降「ブルネイ」とする）の基礎情報と日本産植木輸出の現状についての基礎情報を整理して記述する。

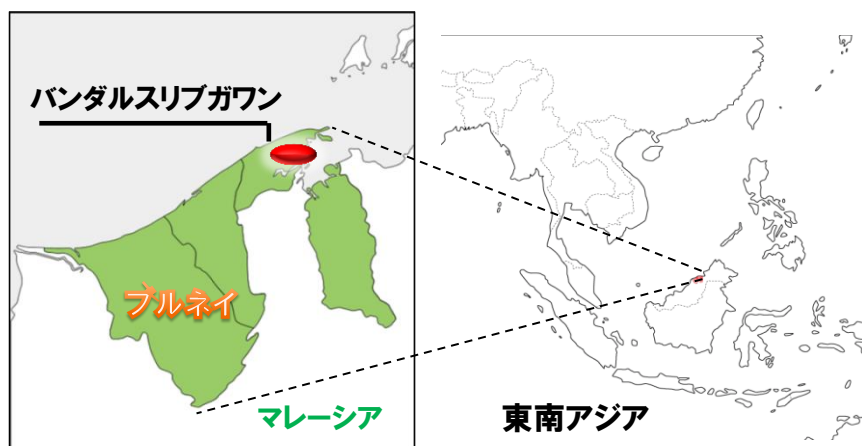
1-1 ブルネイ基礎データ

ブルネイの正式名称はブルネイ・ダルサラーム国（Brunei Darussalam）。東南アジア ボルネオ島の北部に位置するイスラム教国家である。首都はバンダルスリブガワンである。三重県ほどの面積に約41万人の人口を有し、石油・天然ガスの天然資源が豊富な国である。

【地理】

東南アジアにある世界で3番目に大きな島 ボルネオ島の北部に位置する国である。（図1-1）北側は南シナ海に面し内陸部はマレーシアと陸続きの国境を有している。面積は5,765平方キロメートルで、三重県とほぼ同面積であり、国土の約7割を森林が占める。国内は4つの州に分かれており、首都はブルネイ・ムアラ州のバンダルスリブガワンである。

図1-1 ブルネイ位置図



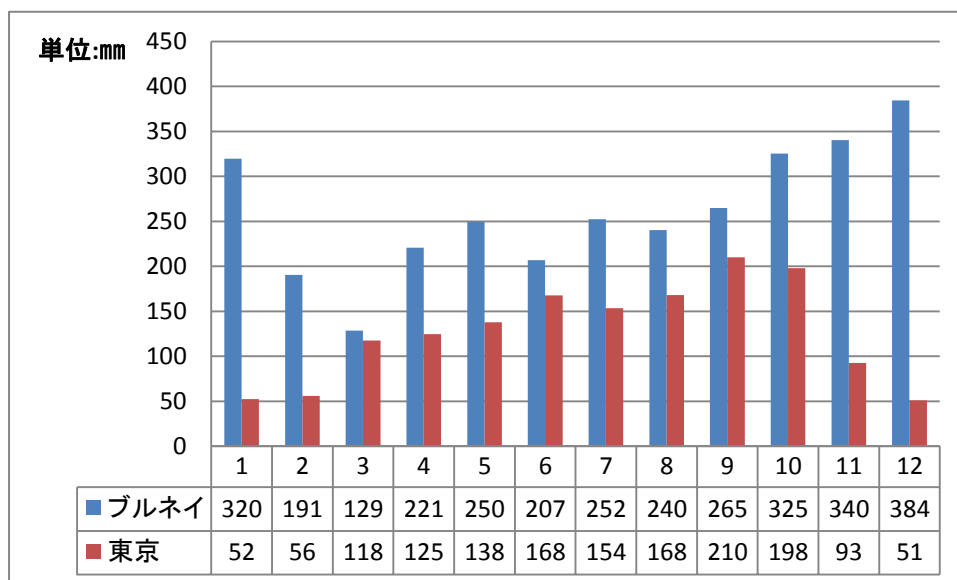
【気候】

熱帯雨林気候に属し、平均降水量も多く10月 - 1月は月間300mmを超える。年間平均気温は約27度で年間を通して高温多湿で蒸し暑く、東京の真夏とほぼ同様の気候といえる。

国土の多くの部分を占める熱帯雨林のジャングルでは、多様な種類の動植物が生息している。

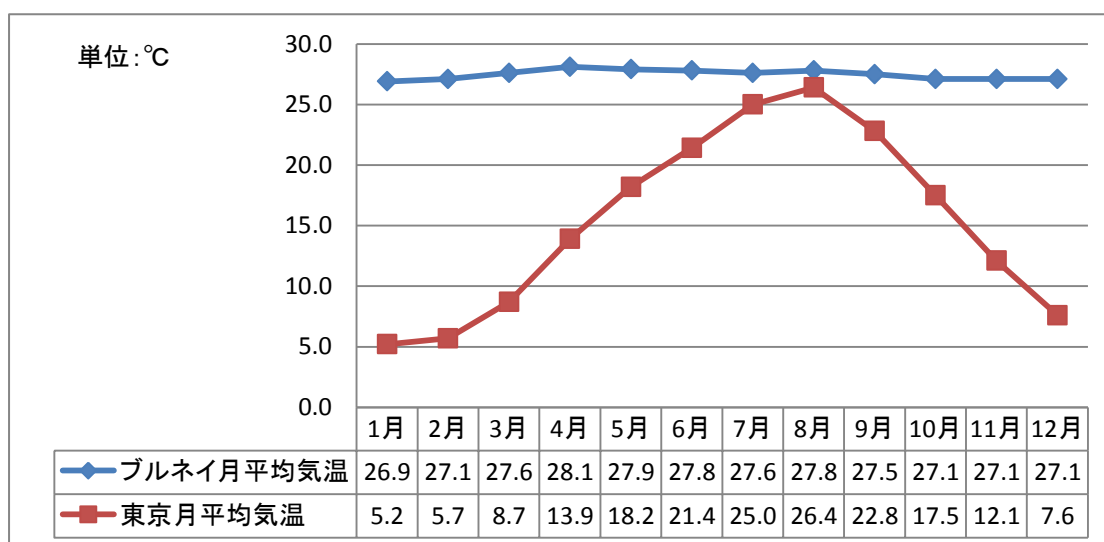
(図1-2 図1-3)

図1-2 ブルネイ・東京の月平均降水量



出所：気象庁平年値データに基づきJETRO作成

図1-3 ブルネイ・東京の月平均気温



出所：気象庁平年値データに基づきJETRO作成

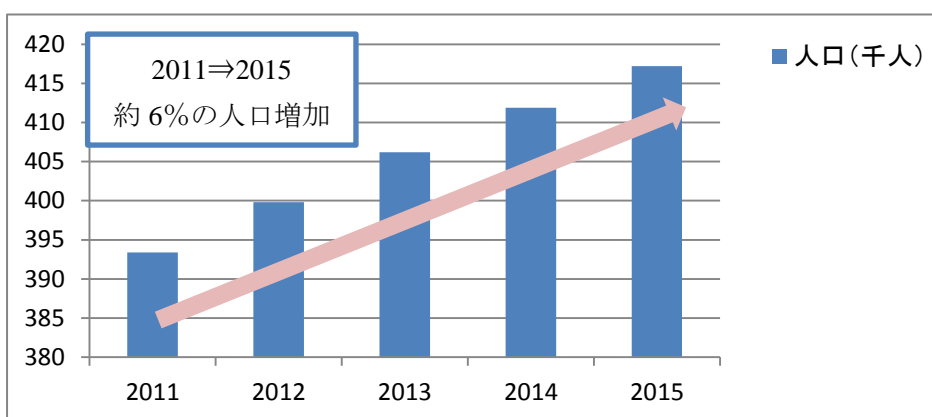
【人口】

人口は41.7万人（2015年）で年々微増しており、2011年から2015年の人口増加率は約6%である。（図1-2）首都 バンダスリブガワンのあるブルネイ・ムアラ州に人口の7割が集中している。

国の平均年齢は29.6歳（2015）で30歳未満が全人口の約半分を占めるなど若年層の割合が多い。（図1-3）（図1-4）

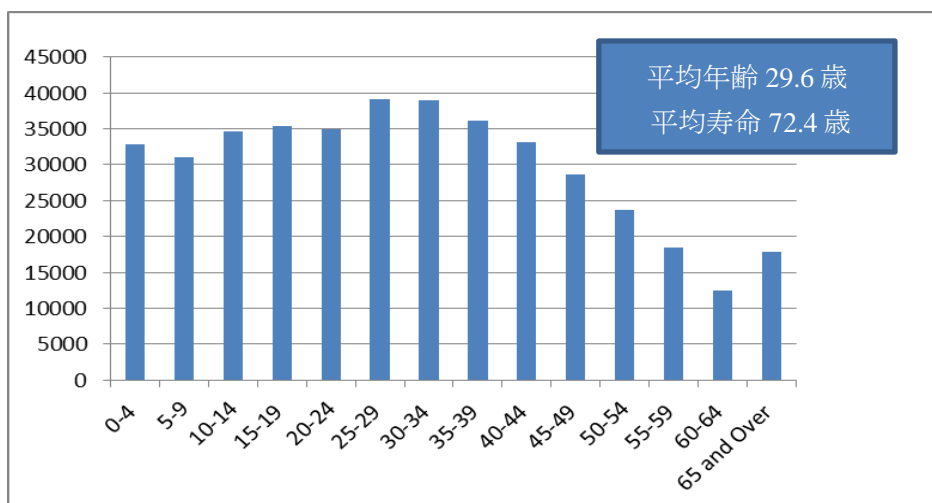
人種内訳としては、マレー系が66%、中華系が10%、その他が24%を占め、その他には、フィリピン、インドネシアなど近隣諸国からの出稼ぎ労働者が含まれる。

図1-4 ブルネイ人口推移（2011年-2015年）



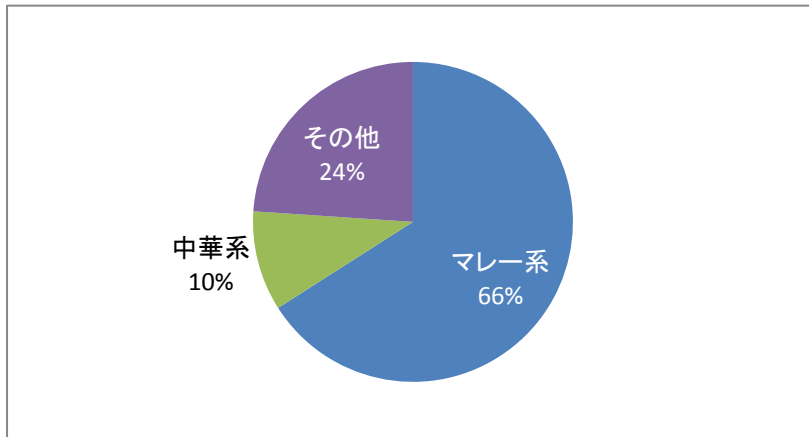
出所：ブルネイ政府首相府経済企画開発局データに基づき JETRO 作成

図1-5 ブルネイ年齢別人口分布（2015年）



出所：ブルネイ政府首相府経済企画開発局データに基づき JETRO 作成

図1-6 ブルネイ人種別人口分布（2015年）



出所：ブルネイ政府首相府経済企画開発局データに基づき JETRO 作成

【公用語】

公用語はマレー語だが、英国との歴史的な絆も深く、初等教育から英語が使用され英語が広く通用している。中国系住民の間では中国語もある程度用いられている。

総じて教育レベルは高く、階級や社会的な身分を重視する保守的かつ穏和な国民性といわれる。

【宗教】

イスラム教が国教であり、国内には多数の礼拝所（モスク）が設置されている。

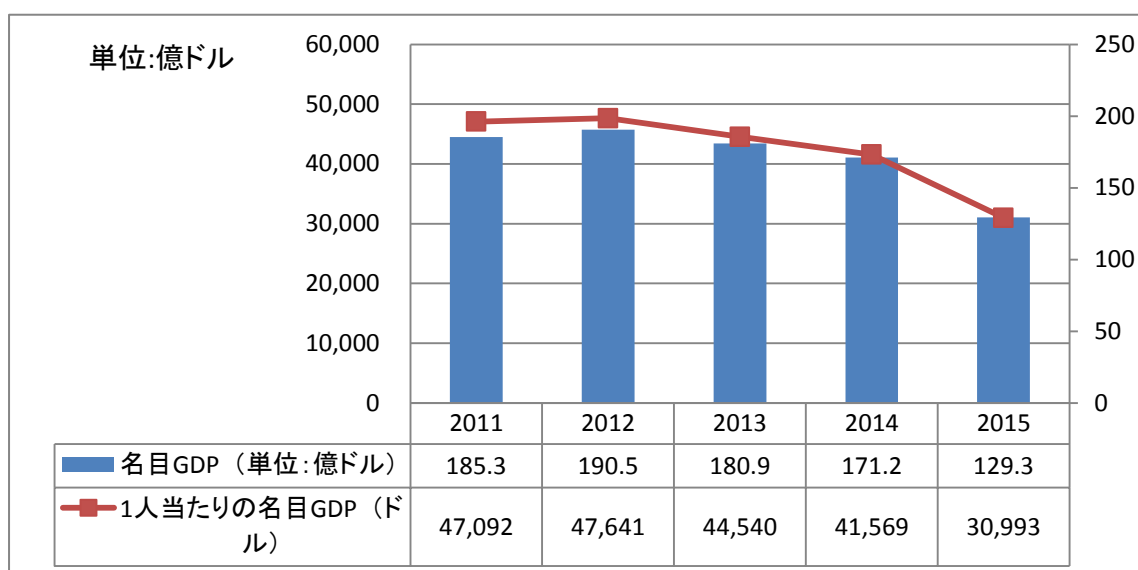
【通貨】

ブルネイドル（B\$）が使われており、通貨レートは1ブルネイドル（B\$）＝79.97円（2017年2月21日現在）。シンガポールドルと等価交換されている。

【経済】

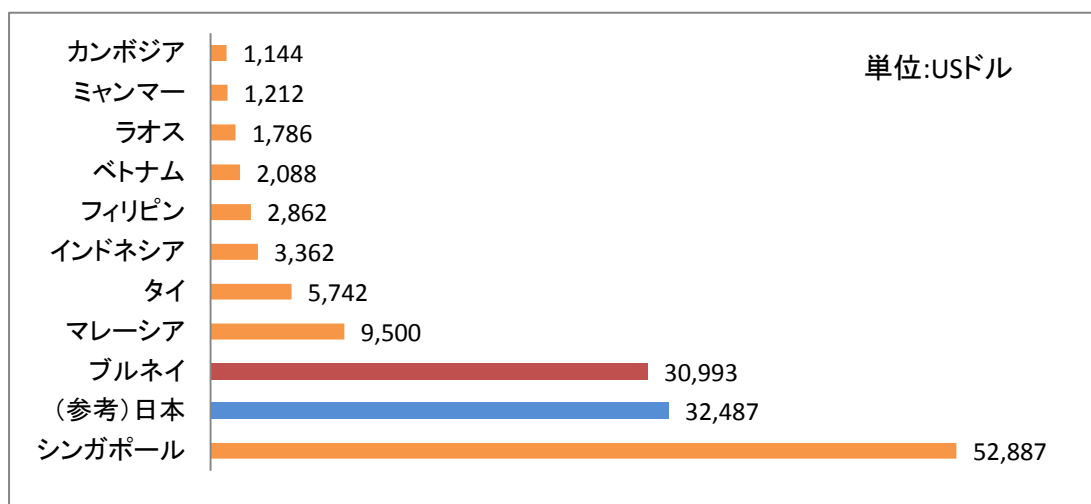
ブルネイの基幹産業は豊富な石油・天然ガス生産である。エネルギー資源の依存度が高いため、資源価格の動向がブルネイの経済に大きな影響を与える。2015年のブルネイの国民総生産（名目GDP）は129億米ドル。日本の国民総生産額（2015年4兆1242億ドル）の1%にも満たないが、1人当たりの名目GDP（GDP÷人口）で比較してみると、ブルネイは30,993ドル、日本は32,478ドルとなり日本と同レベルである。これは東南アジア近隣諸国と比較すると、シンガポールの52,887ドルに次いで高い。（図1-7）（図1-8）

図1-7 ブルネイ名目GDP・1人当たりの名目GDPの推移（2011年-2015年）



出所：IMF World Economic Outlook Database に基づき JETRO 作成

図1-8 ASEAN各国の1人あたり名目GDP（2015年）の比較



出所：IMF World Economic Outlook Database に基づき JETRO 作成

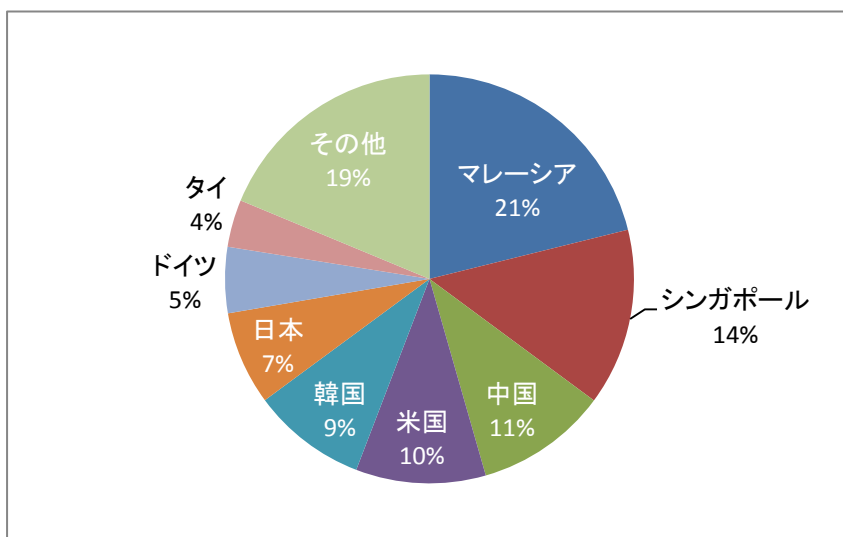
【輸出入】

輸入は、主に機械・輸送機器、工業製品、食料品等を、マレーシア(21%)、シンガポール(14%)、中国(11%)、米国(10%)から輸入している。(図1-9)

輸出は石油・天然ガス等が輸出額の9割以上を占め、日本(36%)、韓国(16%)、インド・タイ(各9%)に輸出している。ブルネイにとって日本は最大の輸出国となっている。

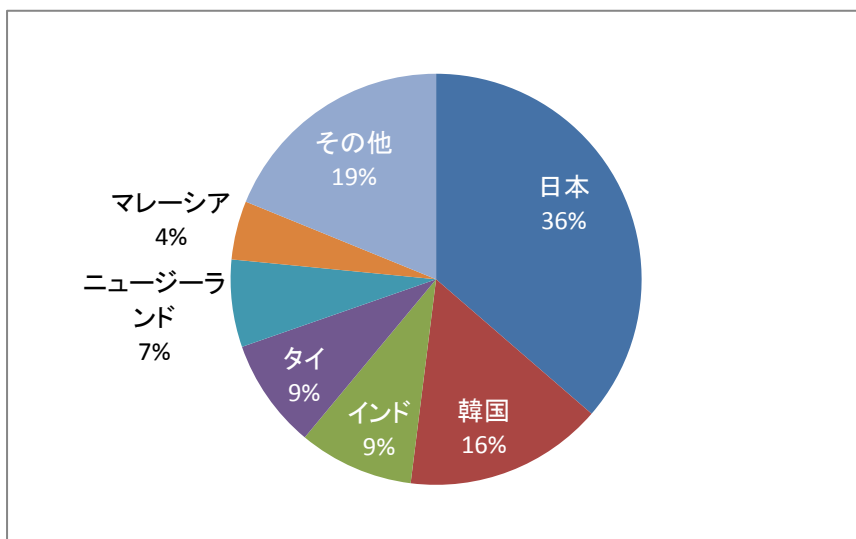
(図1-10)

図1-9 ブルネイの2015年輸入額(国・地域別の内訳)



出所：UN comtrade に基づき JETRO 作成

図1-10 ブルネイの2015年輸出額(国・地域別の内訳)



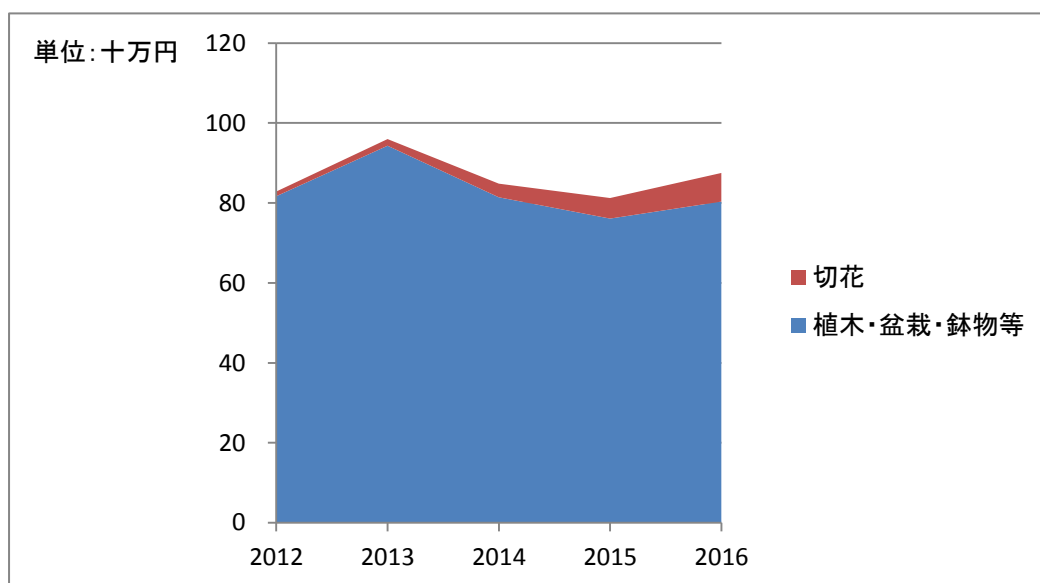
出所：UN comtrade に基づき JETRO 作成

1-2 日本産植木等の輸出の状況

【輸出推移】

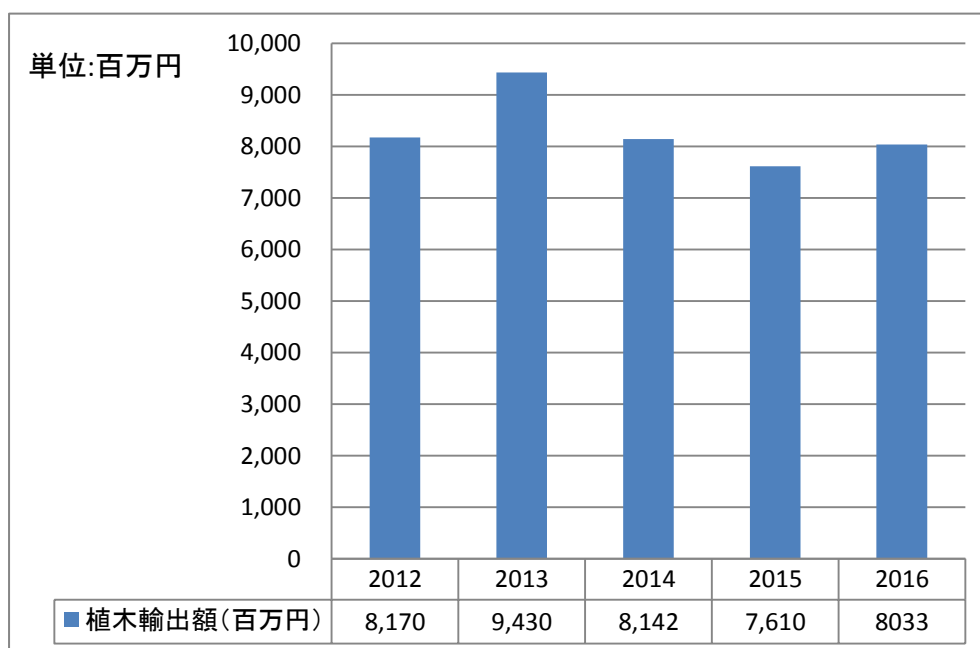
日本の花き全体の2016年の輸出額は、87.5億円（速報値）であり、そのうちの9割以上の80.3億円を植木・盆栽・鉢物類（植木等）が占める。2000年代半ば以降、植木等の急増に伴って、2013年には花き輸出額が100億円近くまで増加したが、2013年以降植木等が減少に転じたことに伴い、花き全体の輸出額も減少傾向にある。（図1-11）（図1-12）

図1-11 日本花き輸出金額の推移（2012年-2016年）



出所：農林水産省輸出入情報に基づき JETRO 作成

図1-12 日本産植木等輸出金額の推移（2012年-2016年）

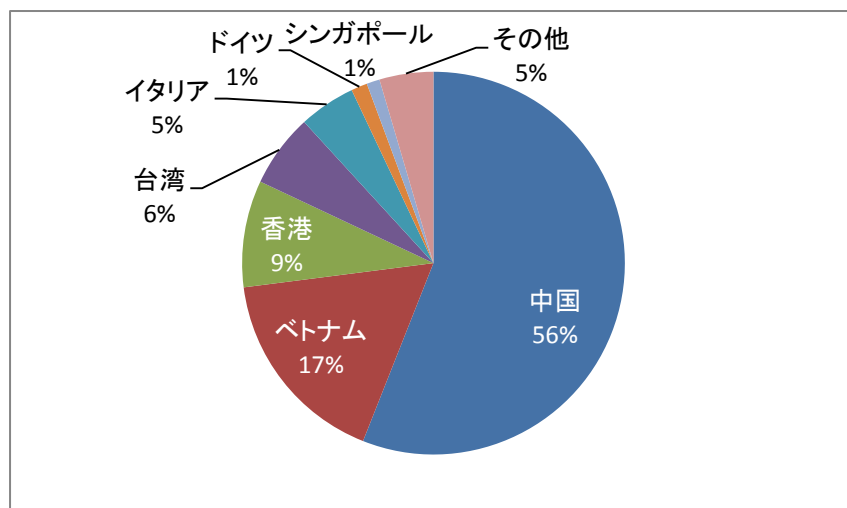


出所：農林水産省輸出入情報に基づき JETRO 作成

【輸出先】

植木等の輸出先（2015年）は、中国が輸出額の5割を超えており、次いで香港・ベトナム・台湾とアジア諸国が続き、アジアだけで約9割を占める。中華系には日本産「イヌマキ」の引き合いが大変強く、ベトナム経由で中国に植木が入っているとの憶測もあるが詳細は不明である。（図1-13）

図1-13 日本産植木等の2016年輸出額（国・地域別の内訳）

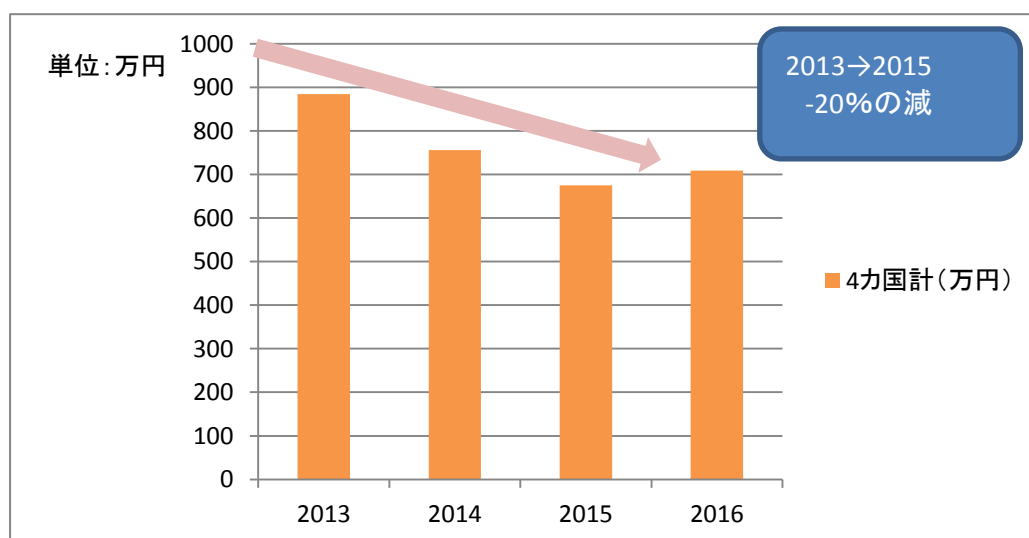


出所：財務省 貿易統計に基づき JETRO 作成

【アジア4カ国輸出額推移】

また、全体の約9割を占めるアジアへの合計輸出額に注目すると、トップ4カ国（中国・香港・ベトナム・台湾）の合計輸出額は4年で約2割減少している。このような状況下、ジェットロが行った海外への輸出に取り組む植木事業者からのヒアリングでは新規輸出国の開拓を望む声が多い。（図1-14）

図1-14 日本産植木等アジア4国（中国・香港・ベトナム・台湾）輸出合計額の推移



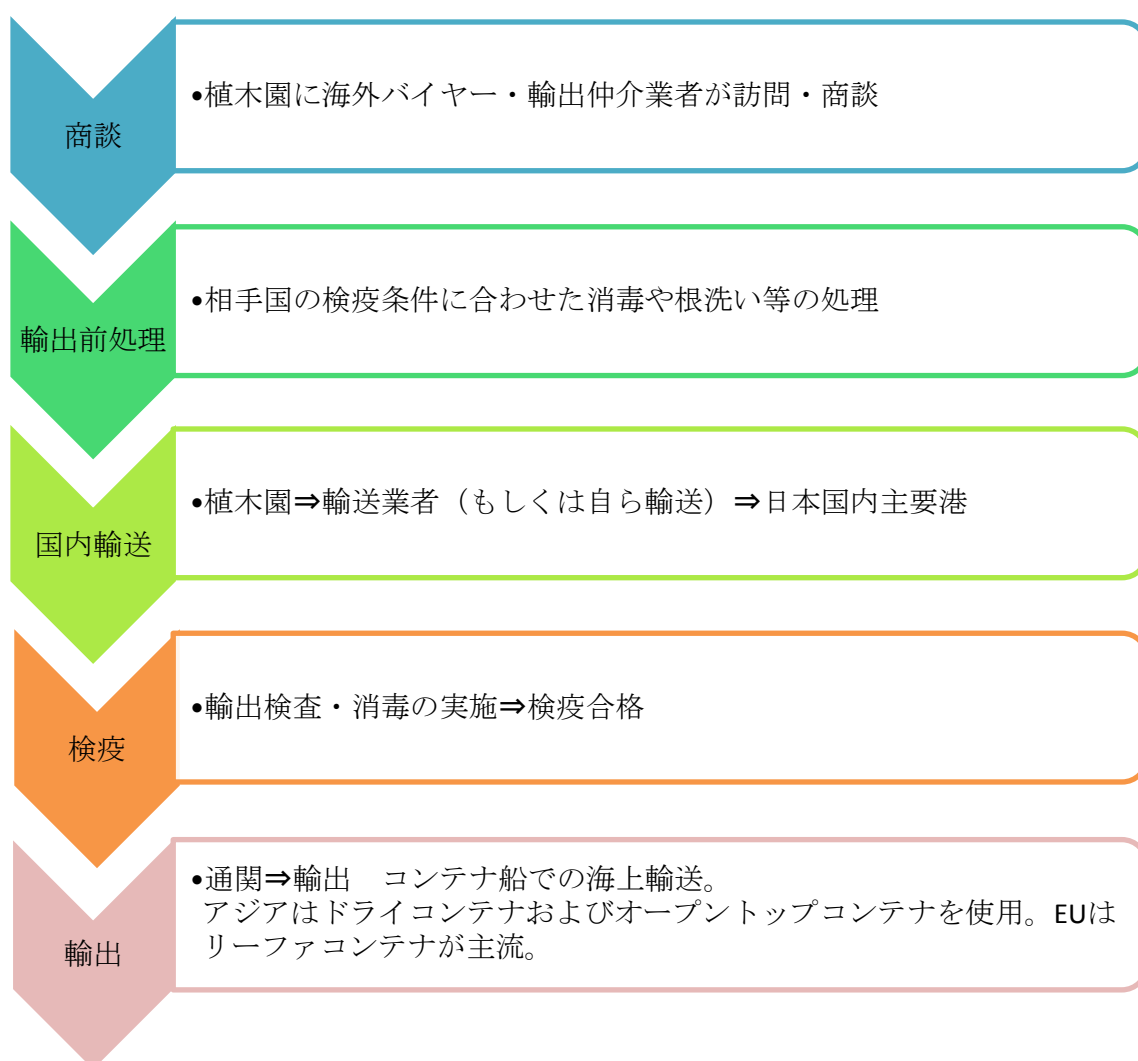
出所：財務省 貿易統計に基づき JETRO 作成

【植木輸出の流れ】

一般的に海外バイヤーから引き合いのある日本の植木は、富裕層向けの1本数百万～数千万という高額なものであるため、バイヤーは産地を訪れ、実際に現物を見て、その場で商談することが多い。商談は随時行われる。また輸出の時期は、仕向け国によって異なるが、夏の暑い時期を避けた木の状態のよい12月-4月に輸出が行われることが多い。

植木等の植物については、植物と一緒に日本からの病害虫が侵入することを防ぐため仕向け地の政府当局において、それぞれ検疫条件を定めている。仕向け地によっては栽培設備の整備や登録圃場で3年間の栽培地管理、栽培地検査が必要となるなど、長期の輸出前準備が必要な場合もある。よって輸出を行う産地では、輸出仕向け地用に、栽培地登録や栽培地検査等の輸出用準備を行っている。

図 1-15 一般的な植木輸出の流れ



出所：海外輸出に取り組む植木事業者からのヒアリングに基づき JETRO 作成

【植木の輸送】

植木の輸送には、コンテナ船が使われる。アジアの仕向地には、ドライコンテナ及び大きさによってはオープントップコンテナを使用し、高さ20mの大木を輸送することもある。

EU諸国等遠方仕向地へは、赤道近くを運行するため、摂氏5度程度に保たれたリーファコンテナで植木を冬眠状態にして輸送する。

日本の港を出発してから仕向け地の港には、アジア諸国では3日-20日ほど、EUへは30日以上を要して到着する。日本及び仕向け地での検査、通関等諸手続きにさらに4-5日の期間を要する。ブルネイに植木を輸送する場合、現在空路・陸路とも混載コンテナ船のブルネイへの直行便がないため、輸出時は近隣国の港を経由する必要がある。シンガポールの港を介して、ブルネイに輸送する場合、シンガポールまでは港間で8日程度、諸手続きで5日程度、計2週間を要する。なおシンガポールからブルネイ・ムアラ港までは3日間の輸送期間である。(図1-16)

図1-16 港間の輸送日数目安

輸出先		日数目安（最短経路）港 - 港 ※日本からは横浜・東京を想定
中国	上海	3日
	北京	12日
香港		3日
台湾	高雄・台北	3日
シンガポール		8日
※シンガポール⇒ブルネイ		3日
ベトナム	ハイフォン	20日
イタリア	ジェノバ	35日
オランダ	ロッテルダム	37日

出所：海外輸出に取り組む植木事業者からのヒアリングに基づき JETRO 作成

2 ブルネイの観賞用植物流通状況等の実態

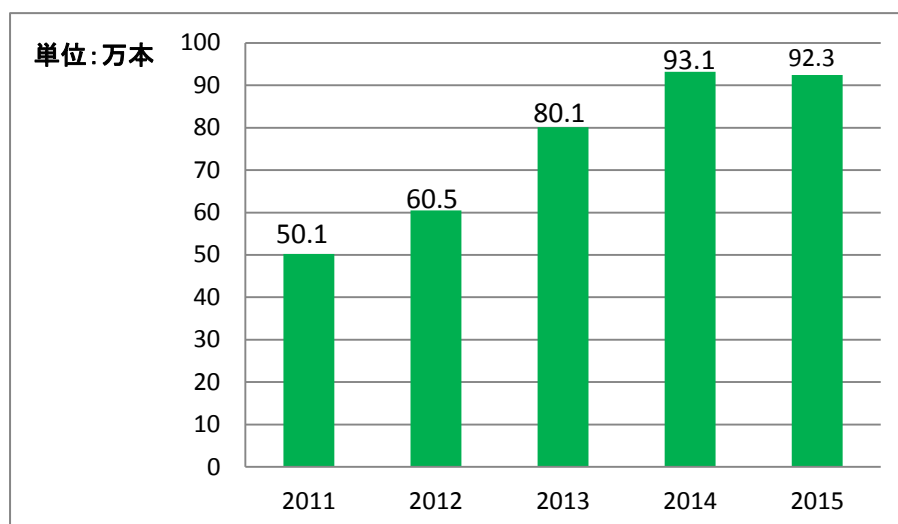
本章では、ブルネイの Ornamental tree（以下「観賞用植物」）の流通状況、輸出入状況についての基礎情報および現地訪問時（2016年11月）の写真を交えて記述する。

2-1 ブルネイ観賞用植物の輸出入の概要

【総出荷量と国内自給率】

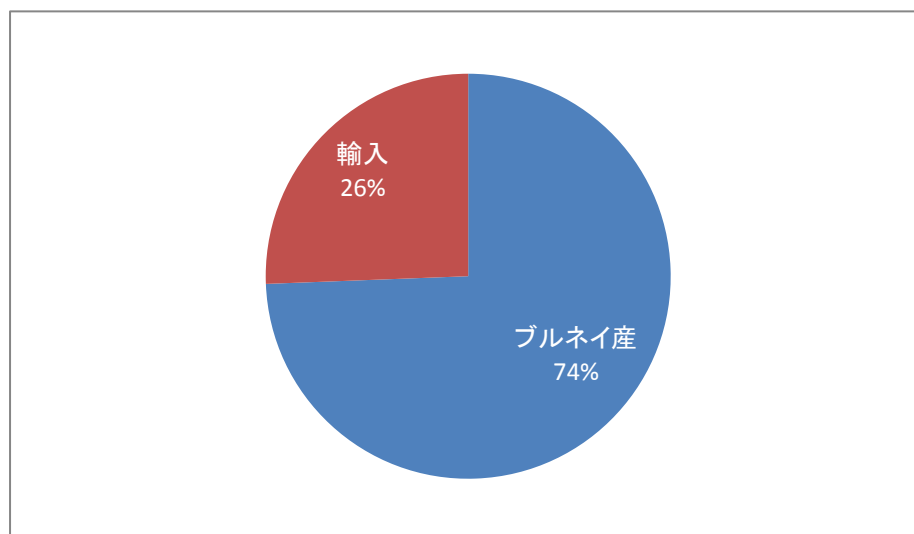
2015年 ブルネイ全体の観賞用植物の総出荷量は92.3千本で、2011年から徐々に増加傾向にある。（図2-1）このうちブルネイ産は68.7千本で全体の74%で、輸入は23.6千本で26%、出荷本数の国内自給率は7割をこえている。（図2-2）これは、熱帯地域で多様な植物が自生しており、自給しやすい環境が起因していると予測される。

図2-1 ブルネイ観賞用植物出荷本数の推移（2011年-2015年）



出所：Agriculture & Statistics 2015 に基づき JETRO 作成

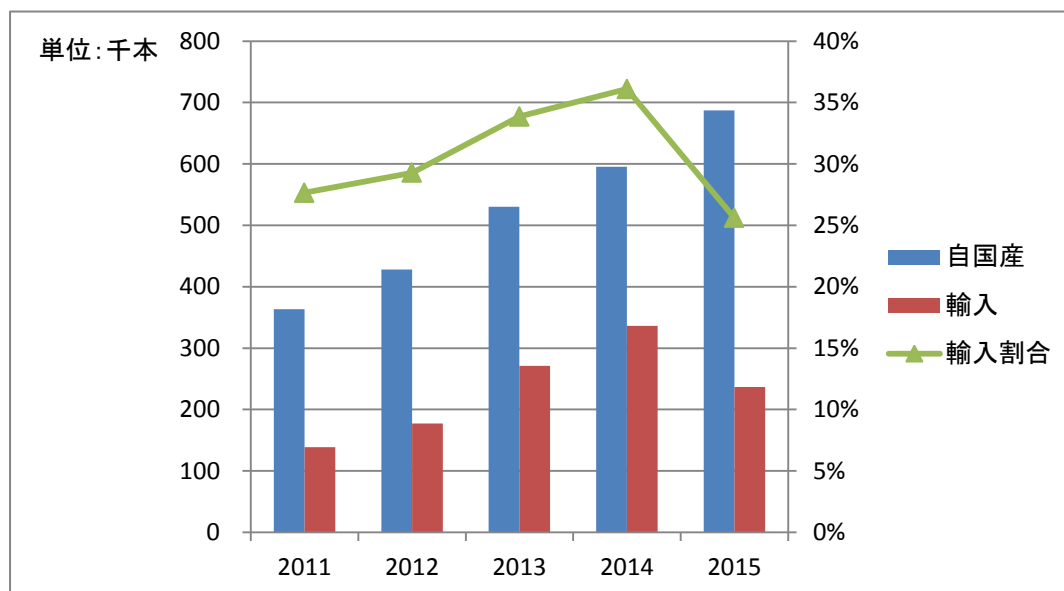
図2-2 ブルネイ観賞用植物出荷本数ベース自給率（2015年）



出所：Agriculture & Statistics 2015 に基づき JETRO 作成

観賞用植物のブルネイ産と輸入産の数量の推移を見てみると、2011年からブルネイ産の出荷量が右肩上がり増加している。輸入割合は、2014年には36%まで増加したが、2015年にはブルネイ産の伸びに反して、全体の26%と本数も割合も減少した。

図 2-3 観賞用植物出荷本数と輸入割合の推移 (2011年-2015年)



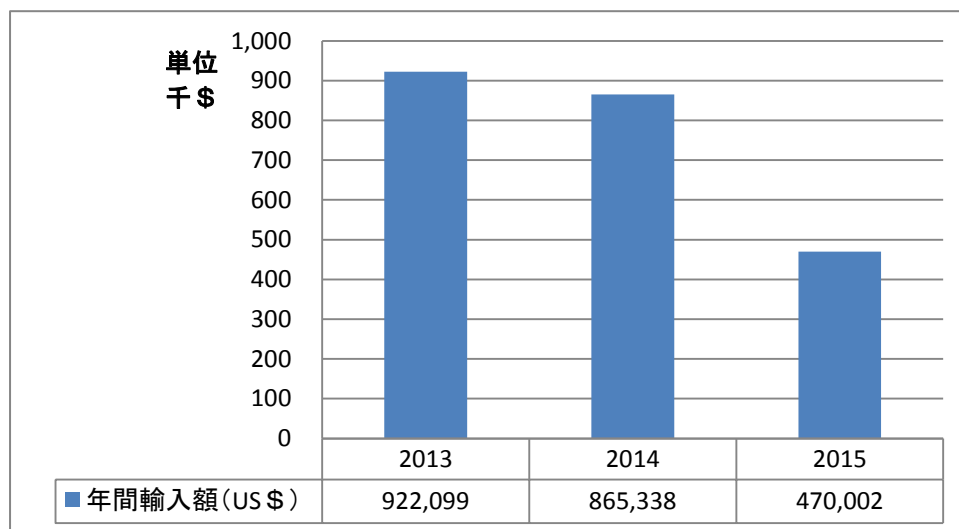
出所：Agriculture & Statistics 2015 に基づき JETRO 作成

【植木等輸入額の推移と人口比植木等輸入額】

2015年のブルネイの植木等の輸入額は47万ドル(57,363千円)※である。輸入額は2013年を境に減少傾向であるが、人口比で一人当たりの輸入額を換算してみると、アジア周辺国の中で2位であり、人口比の輸入額は多い。(図 2-4) (図 2-5)

※三菱UFJ 年間平均 TTS レート US ドル 122.05 円 (2015年) を使用

図 2-4 ブルネイ植木等輸入額推移 (2013年-2015年)



出所：UN comtrade に基づき JETRO 作成

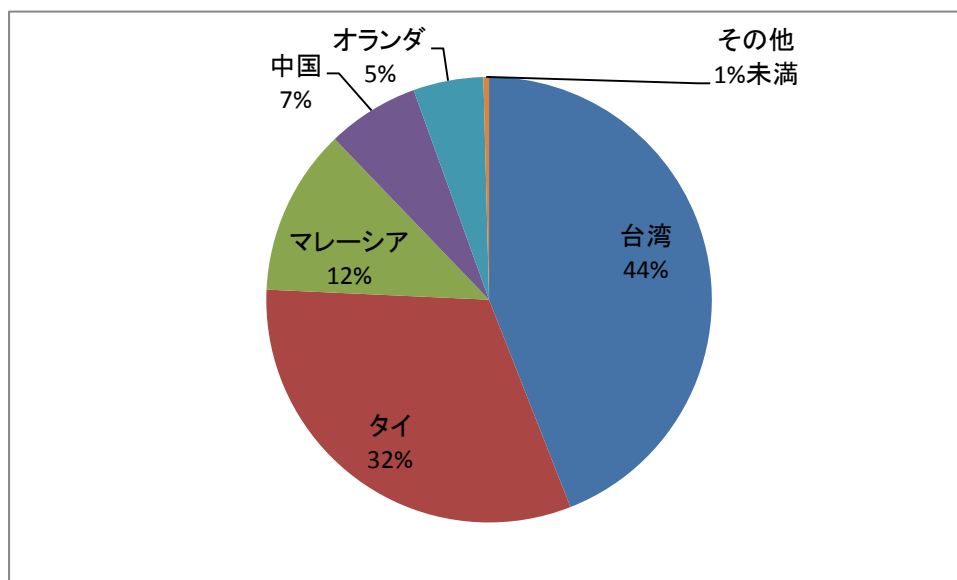
図 2-5 ブルネイ及び周辺国の一人当たりの植木等輸入額（2015年）

	ブルネイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	タイ
人口（2015） （単位：万人）①	42	554	3,119	25,546	6,884
植木等輸入額 （2015） （単位：USD）②	470,002	46,043,621	3,893,815	670,395	5,873,552
一人当たりの植木 等輸入額（2015） （USD/人）②/①	1.1	8.3	0.1	0.0	0.1
日本からの植木等 輸出額（単位 USD）	—	617,271	107,928	207,732	2,231

出所：UN contrade 及び IMF Outlook database に基づき JETRO 作成

また、輸入先は、台湾とタイが中心であり、2国で7割強を占めている。また、隣国マレーシアからの陸続きの輸入も1割強を占め、近隣諸国からの輸入がほとんどである。またこれまでに日本からの植木等輸入はみられていない。（図 2-6）

図 2-6 ブルネイの植木等輸入 国・地域別内訳（2015年）

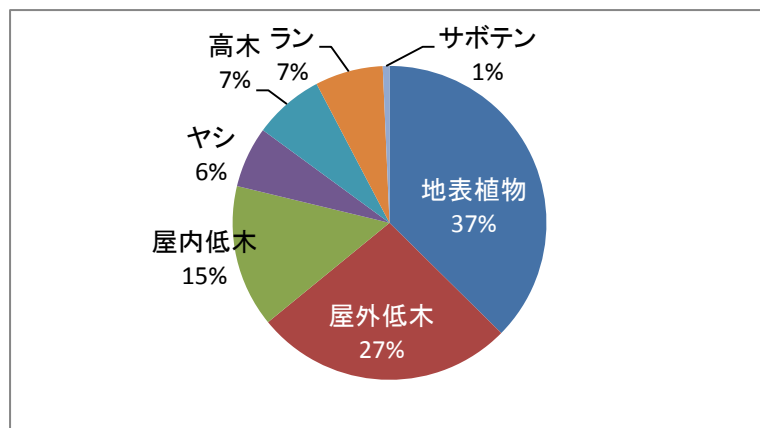


出所：UN contrade に基づき JETRO 作成

【ブルネイにおける観賞用植物の生産状況】

では、ブルネイの観賞用植物は、どのような品目が国内で生産され、また輸入されているのだろうか。ブルネイ産は、生産量ベースでは、芝やクローバーのような地表植物が最も多く生産されている。続いて屋内外低木、ヤシと続く（図 2-7）

図 2-7 ブルネイの観賞用植物の生産状況（2015 年）



出所：Agriculture & Statistics 2015 に基づき JETRO 作成

【ブルネイに輸入されている観賞用植物】

他方、ブルネイに輸入されている観賞用植物の品目をみると、ランの輸入が特に多いことがわかる。後述するが、現在の花きマーケットでもランの鉢物は多く販売されており、高級ホテルの装飾や宮殿にも納入されている。ブルネイ産の切花の品種の生産本数 1 位もランで 76%を占めており、ブルネイにおいて人気が高いことがわかる。（図 2-8）

なお、ラン科は全て草本（木にならない植物）のため、植木としてではなく鉢物や苗で輸入されていると予想される。

	品種	科	輸入量(本)
1	ファレノプシス	ラン	61,118
2	デンドロビウム	ラン	49,045
3	バラ	バラ	12,484
4	モカラ	ラン	12,190
5	ブーゲンビリア	オシロイバナ	11,751
6	ラン	ラン	10,120
7	アンズリウム	サトイモ	9,954
8	ハイビスカス	アオイ	7,983
9	アデニウム	キョウチクトウ	6,630
10	ナデシコ	ナデシコ	2,350
輸入品種ベスト 10			183,625
ベスト 10 のうちのラン科植物			132,473

出所：Agriculture & Statistics 2015 に基づき JETRO 作成

【ブルネイの植木等の輸入関税】

ブルネイへの植木等（HSコード：0602）の輸入関税は、すべて無税となっている。

（2017年2月21日現在）

図 2-9 ブルネイ関税率

HSコード	品名		最恵国待遇税率
0602	その他の生きている植物(根を含む。)挿穂、接ぎ穂及びきのこ菌糸		
	-	根を有しない挿穂及び接ぎ穂	
0602.10.10.00	--	ラン	無税
0602.10.20.00	--	ゴムの木	無税
0602.10.90.00	--	その他	無税
0602.20.00.00	-	樹木及び灌木(食用の果実又はナツのものに限るものとし、接ぎ木してあるかないかを問わない。)	無税
0602.30.00.00	-	しやくなげ、つつじその他のつつじ属の植物(接ぎ木してあるかないかを問わない。)	無税
0602.40.00.00	-	バラ(接ぎ木してあるかないかを問わない。)	無税
	-	その他	無税
0602.90.10.00	--	根を有するランの挿穂及び接ぎ穂	無税
0602.90.20.00	--	ランの苗	無税
0602.90.40.00	--	パラゴムノキ属の芽のでている幹	無税
0602.90.50.00	--	パラゴムノキ属の苗	無税
0602.90.60.00	--	パラゴムノキ属の穂木	無税
0602.90.70.00	--	ホロムイツツジ シダ	無税
0602.90.90.00	--	その他	無税

引用) World Tariff に基づき JETRO 作成

2-2 ブルネイ国内の植栽について

2016年11月22日～24日にブルネイを訪問した際には、首都バンダルスリブガワンでは二つの豪華絢爛なモスク周辺を始め、公共建築、住宅地、道路等多くの場所で植栽がみられた。これらの訪問先での植栽の様子を以下に記す。

訪問した印象では、ブルネイは世界有数の熱帯雨林を持ち、多彩な植物が自生するボルネオ島に立地していることもあり、植栽に限らず街のいたるところに樹木が自生し大変緑豊かな国という印象であった。

◇モスク（イスラム教の礼拝堂）

ブルネイの国教はイスラム教であり、国民の約70%が敬虔なイスラム教徒といわれている。ブルネイ国内には2つの巨大なモスクを中心に多数のモスクが街中にあり、モスクの周りには、ヤシや中低木の植栽がされていた。

名称	ジャメアスルハッサナルボルキアモスク（通称：ニューモスク）
住所	Sultan Hassanal Bolkiah Highway, Bandar Seri Begawan, Brunei Darussalam
概要	第29代現ボルキア国王が建設したモスクで、1994年に完成した。通称ニューモスクといわれる。 約5000人が一度に礼拝できる巨大な礼拝堂を中心に、サラセン調の大理石造りの建物、純金のドームがあり壮大かつ豪華な雰囲気。 多様な樹種が植栽されており、緑豊かな公園という印象



モスクの正面には、背の高いヤシが両側に植栽、庭園には芝。中低木や花木の多種多様な植栽



左はブルーアイス（類似種）ヤシを除いては中低木と花が多い印象。常夏のため常緑樹中心。

◇メイン通り

名称	スルタン通り Jalan Sultan
概要	首都 バンダルスリブガワンの中心部を南北に走る。 中央分離帯や道路の両脇等植栽が施されている。 剪定は基本伸びたものを整えるだけのようで、日本の植木のように芸術的な意図を感じるものではない。



中央分離帯にはマキ（左）等が植栽され剪定されている

◇街路樹 樹形の広い広葉樹「ネム」（類似種）等が植栽



植栽の種類は多種多様である。公共植栽を手がけるブルネイ事業者によると、熱帯で自然豊かな土地であるため、元々ブルネイにある木も多様で、自生の木を移植したり、植栽に適した木を挿し木で増やしたのも多いとのこと。

今回訪問した先では、熱帯に多く見られ、食用等実用的価値の高い「ヤシ」、平らに広がる樹形が木陰をつくる「ネム」の類似種、常緑性針葉樹で輸出等の環境変化に強い「カイヅカ」「マキ」の類似種が街路樹に主に使用されていた。

◇在ブルネイ日本大使館周辺

ブルネイの気候に適した多様な樹木が植えられていた。



ヤシ



マキ (4m程度・剪定なし) リュウゼツラン



◇高級住宅地 (植栽管理委託)

外国からの駐在員の住宅。高級住宅地の開発、植栽管理をしている企業「DESARI (properties management company)」の賃貸で月1回剪定管理が行われている。ヤシの木やネムなどの樹形の広い大きな樹木や、マンゴー等果実のなる木、ハイビスカス、ハラン (ハラン属の常緑多年草。常緑樹の下でもよく育つ) などが植栽されていた。



駐在員等の高級住宅地の植栽については、不動産屋が高級住宅地を開発し、物件リース及び植栽管理も同時に行っていた。2016年11月22日、高級賃貸物件をリースしている「DESARI (properties management company)」にヒアリングをした結果は以下のとおり。

名称	DESARI (properties management company)
担当者	Mr. Awang Abdul Rahman 氏 Ms.Hij Dayang Sophia 氏
事業内容	不動産開発、不動産リース、管理等

【植栽ニーズ】

- ・一般的にブルネイの人は「この木を植えたい」というような、樹種にこだわりや関心はあまりなく施工時にリクエストもない。賃貸物件でも、樹木に関するリクエストはほとんどない。
- ・建物ができてから植木や花の市場で、美しい花や果物の木を見つけ、自分で植える人が多い。
- ・花も咲けばよく、色や形にこだわる人は少ない。熱帯で木が多く、ジャングルも身近にあり、木に関心とこだわりがないのだと思う。
- ・最近石庭（庭木をほとんど使わないで、岩・石・砂でつくられた庭）を作ってほしいという依頼があった。
- ・石庭に使用する大きいサイズの木は、バンドルスリブガワン近郊の樹木を移植。小さい樹木や石は、ブルネイ最東端の飛び地 テンブロン地区（Temburong）より運搬されている。

【植栽管理について】

- ・現在手がけている住宅は十数件。富裕層用賃貸物件については植栽に関してはデザイン・施工・管理も含め、ブルネイ最大の花卉卸売事業者「K.N.NURSERY」に委託している。

【日本企業へのニーズ】

- ・日本の木の情報はいままでなかったが、新しい顧客提案のひとつとして日本庭園のオプションを設けてもよいと思う。日本庭園に適した樹木や輸入提案をしてほしい。

◇高級ホテル

名称	THE EMPIRE HOTEL & COUNTRY CLUB
住所	Jerudong BG3122, Negara Brunei Darussalam
担当者	JAMES CHARLES GORDON 氏（植栽担当）
概要	ブルネイ最高級のホテルで、ブルネイ唯一のビーチリゾートホテル。ボルネオ島の世界最古の熱帯雨林のそばに立地している。18 ホールのゴルフコース、日本食レストランを始め 7 軒のレストラン、ショッピングアーケード、ラグーンプール、映画館なども併設。

2016年11月24日、同ホテルの植栽担当者 JAMES CHARLES GORDON 氏にヒアリングをした結果は以下のとおり。

【植栽について】

- ・ホテル内、ゴルフ場及び Jerudong Park（ジュルドンパーク）の植栽を担当している。
- ・会社独自で観賞用植物の輸入ライセンスを持っており、現在タイ・台湾・マレーシアから輸入を行っている。今年（2016年）は230本の木を輸入。
- ・植栽は、主にブルネイ産の多様な樹木を活用するが、それでも集まらない木だけを（例えば大きなパームツリー、大きなブーゲンビリア）を輸入。
- ・植栽の管理は10名の地元の労働者が、栄養剤の使用や消毒を行い管理を行っている。

【日本植木のニーズ】

- ・日本食レストラン「ZEN」を有し、現在改装中。入口からレストランへの通路に日本風の植栽をしたい。またホテル内やジュルドンパークに日本庭園を作りたい。
- ・しかし日本の樹種をよく知らないし、どのように輸入したらよいかも不明。デザインも含め庭園設計の樹種、輸入方法を提案してほしい。

①「ZEN」レストランの入口



②両脇を日本風にしたいと希望



③ スペースに植木



④日本食レストラン（改装中）



⑤プール周りは南国らしい背の高いパームツリー



⑥ロビー等のホテル内の装飾は全て「ラン」



◇日本料理店

名称	KAIZEN SUSHI
住所	Waterfront B.S.B, Bandar Seri Begawan, Brunei
概要	ウォーターフロントの日本食レストラン。中 - 高所得者層が顧客で民間レストラン口コミサイトで 1 位を取得している。訪問時は <u>日本のイメージを持つ細竹の植栽が施してあった。</u>



◇一般家庭

バンドルスリブガワン州の多くの家庭にマンゴー、リュウガン等の果実のなる木が植えられている。住民によると、鉢植え花や植木はマーケットで購入。樹種にはこだわりがなく、実がなるもの、美しい花が咲くもの等それぞれの好み。樹木は自然に任せた形で伸びている。手入れはほとんどしないとのこと。



木陰をつくる常緑高木 (ユズリハ類似木)



ブーゲンビリア等の鉢植え



庭先には鉢植えが多く並べられている。



一般住宅の庭先には盆栽も。

◇植物園・公園

名称	Tasek Lama Recreational Park
住所	Jalan Tasek Lama, Bandar Seri Begawan
概要	首都バンダルスリブガワンにある自然公園。ハイキング、トレッキングコースを有し、ブルネイ国民・観光客が散策していた。道路沿いの樹木には、木の学名等が示され、樹種を学べるようになっていた。また日本庭園というスペースもあるが、灯籠様のものであるだけで、本物の日本文化を示すには至っていない。



平日の昼間に訪問したが、視察時は人通りはまばら。中低木の植木・花鉢等がバラエティ豊かに並ぶ



左) 「taman jepun」日本庭園。灯籠様。日本らしい造形木はない。



Scientific Name(学名) Family(科)
 Local Name (地方名) が明示されている。



訪問に同行した日本の植木事業者によると、こちらの公園の土は粘土質のレンガ土である。レンガ土は、排水が悪く、雨が降ると水たまりになり、乾燥するとレンガのように固くなる

ため、元々そこで育った植物、似た環境で育った植物でないと、移植は難しいとのこと。
(千葉等植木産地では、レンガ土の場合、赤土や砂利を混ぜて土の改良を行うとのこと。)

2-3 ブルネイ植木等マーケットについて

現地の花き事業者等からのヒアリングでは、ブルネイ国内で花きは、個人（私的）需要では花き市場等が、公共需要ではそのほとんどを国内最大手の花きの事業者「KN NURSERY」が対応しているとのことである。なお、現地のスーパーマーケットでは、鉢物や切花をほとんど置いていないとのことである。

◇花き市場

名称	Pertanian Tropikal Utama (プルタニアン・トロピカル・ウタマ)
住所	Jalan Estet Gadong
概要	花きの小規模店舗が 30 店舗ほど集まっており、一般市民を顧客として庭に植える植木や草花、肥料等を販売。

訪問時（2016年11月23日）は、日々草、ブーゲンビリア等の鉢植え花や、マキ・カイヅカ等の植木、シークワーサーやリュウガンなどの果実木、竹、ランなど多種多様な植物が、ビニールポットや鉢などに苗等が植えられて販売されていた。販売者に聞くと、これといった流行やニーズに際立ったものはなく、個人の好みで売れていくとのこと。ほとんどはブルネイ産植物であるが、マレーシアも首都バンダルスリブガワンから陸続きで2時間もあれば行けるため、ブルネイ産の植木のほかに、マレーシアで安い鉢植植物を購入して輸入するものもあるとのことであった。花き市場では、鉢や土、肥料も販売されていた。



平日の昼間に訪問したが、人通りはまばら。 中低木の植木・花鉢等がバラエティ豊かに並ぶ



ランはブルネイ産+マレーシアや台湾より輸入。



ブルネイマキは挿し植えて増殖。



植栽用の土や肥料を販売



植木鉢

◇流通事業者について

名称	KN NURSERY (B) SDN.BHD
担当者	プロジェクトマネージャー Mr.Richard Koh 氏 プロジェクトコーディネーター Mr. Jamalludin Hj Yosoff 氏
事業内容	1988年設立のブルネイ最大の花き総合業者で、輸入ライセンスを持ち、公共事業・造園の設計施工管理、育種、花き・野菜・土・肥料・土壌改良剤の販売まで幅広く事業展開している。大統領府やブルネイ国際空港等の庭園デザイン・施工を行うなど実績多数である。 巨大な温室（花と植木）を備え、将来的には総合的なワンストップの園芸施設をつくる展望あり。



巨大なグリーンハウス。外の植物・造園資材もすべて販売されていた。



花のポット。3つで10BND（約800円）

2016年11月23日、KN NURSERYのプロジェクトマネージャー Mr.Richard Koh 氏、プロジェクトコーディネーター Mr. Jamalludin Hj Yosoff 氏にヒアリングした結果は以下のとおり。

【ブルネイのニーズ・輸入状況】

- ・最近注目しており、ブームがくると予想するのはサボテン（多肉植物）。現在、多肉植物はオランダ等から輸入しており、タイからは日本原種の多肉植物を輸入している。日本の多肉植物はバラエティ豊かで日本の技術を感じている。直接輸入に関心がある。
 (KN NURSERYの直売店舗では、日本原産サボテンが1鉢 15cm～20cm程度 6,000 - 30,000円で販売されていた)
- ・ランは宮殿需要があり、種からブルネイで育成するものと、台湾から10cmほどの苗を入れて育成するものがある。宮殿には2000-2500株を毎月納入している。
- ・植木の輸入はマレーシア、タイ。台湾はランだけの輸入である。ブルネイの気候に適したものを輸入する。
- ・土付きでは輸入できず、根洗いしてピートモスを巻いた状態で輸入。
- ・ブルネイにもマキはあり、中華系の人には好まれる。プロジェクトマネージャー リチャード氏も20年前からブルネイマキを使った塀垣を作っている。マキは成長がおそいため管理が容易と認識。

- ・ブルネイのマキは黒ホシ病にかかることがあるが日本はどうか、ブルネイになくて日本にある病気を教えてほしい。（訪問に同行した日本の植木事業者の経験によると、日本のマキは黒ホシ病にはかからないとのこと）

【日本植木等のニーズ】

- ・日本の植木には関心があり、すべての情報をほしいが価格をみてみないと何ともいえない。（他国の輸入価格について言及はないが）高いものなら王室需要しかない。安いものなら一般需要も考えられると思う。



タイから輸入した日本のサボテン



サボテンは国内及びオランダからの輸入品



王宮にランを納入（月 2000-2500 鉢）



野菜苗は1つ 3BND（約 240 円）

3. ブルネイ観賞用植物の輸入のプロセス及び要件

本章では、ブルネイの観賞用植物の輸入プロセス及び要件について記述する。

3-1 植物の輸入プロセスについて

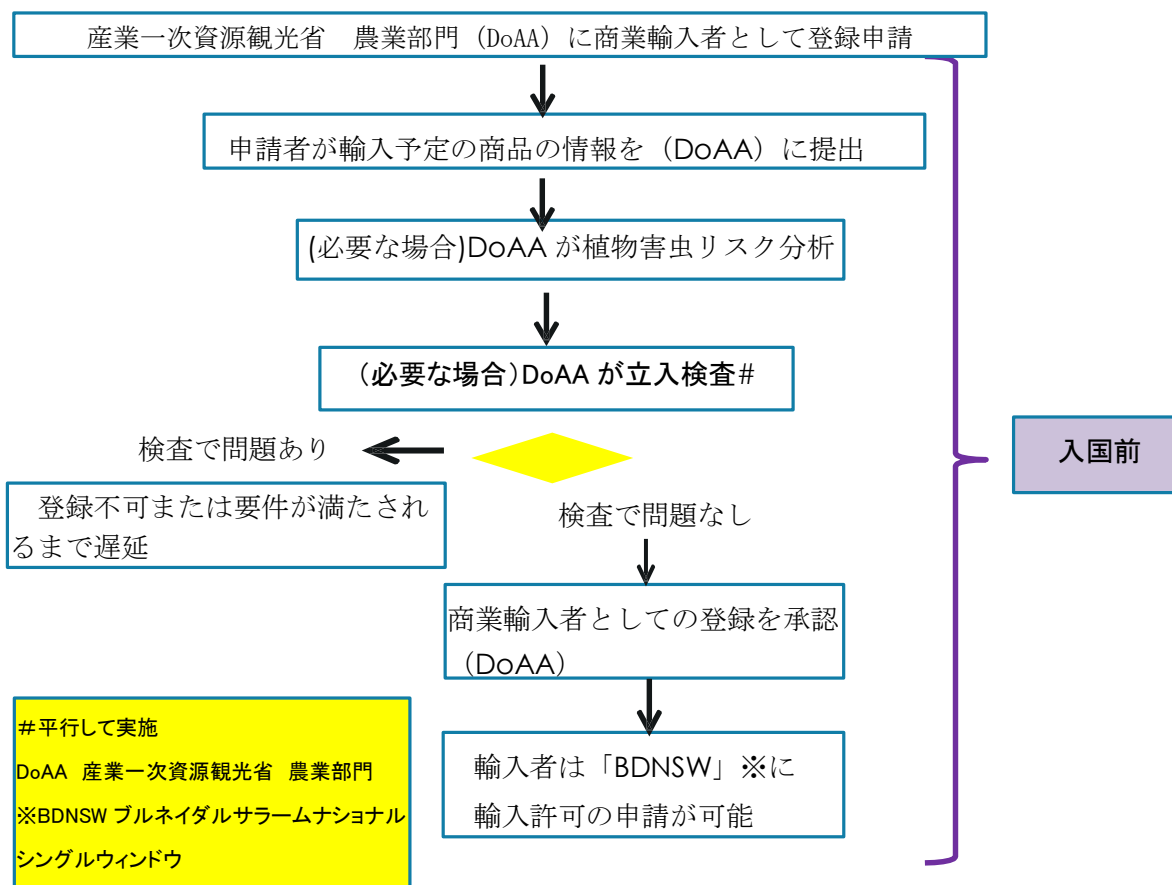
2016年3月24日、ブルネイ産業一次資源観光省で、農政担当者、花き産業担当者等から植物輸入のプロセス及び要件についてヒアリングを行った。

日本からブルネイに植木を輸入するまで及び輸入後のプロセス・規制は以下のとおり。

3-1-1 植物輸入者の登録

植物輸入を行うにはブルネイの事業者が、産業一次資源観光省 農業部門（DoAA）に商業輸入者として輸入したい商品の登録申請を行い、申請の承認後、植物輸入許可申請が可能となる。

図 3-1 ブルネイ入国前の輸入プロセス



出所：ブルネイ産業一次資源観光省資料（2016年11月24日）より JETRO 作成

3-1-2 植物輸入許可書の取得

植物輸入許可の申請は、ブルネイ側の輸入事業者が、オンライン上で又は来訪して行う。

- オンライン申込 「BDNSW」 <https://login.bdnsw.gov.bn>
(ブルネイダルサラーム ナショナルシングルウィンドウ)

- 来訪申込 ブルネイ産業一次資源観光省 農業部門 バイオセキュリティ課
- 輸入許可発行期間 申込書が届いた日から数えて1営業日（通常の場合）
- 申込料 許可1件（荷物1つ）に対して B\$7.00

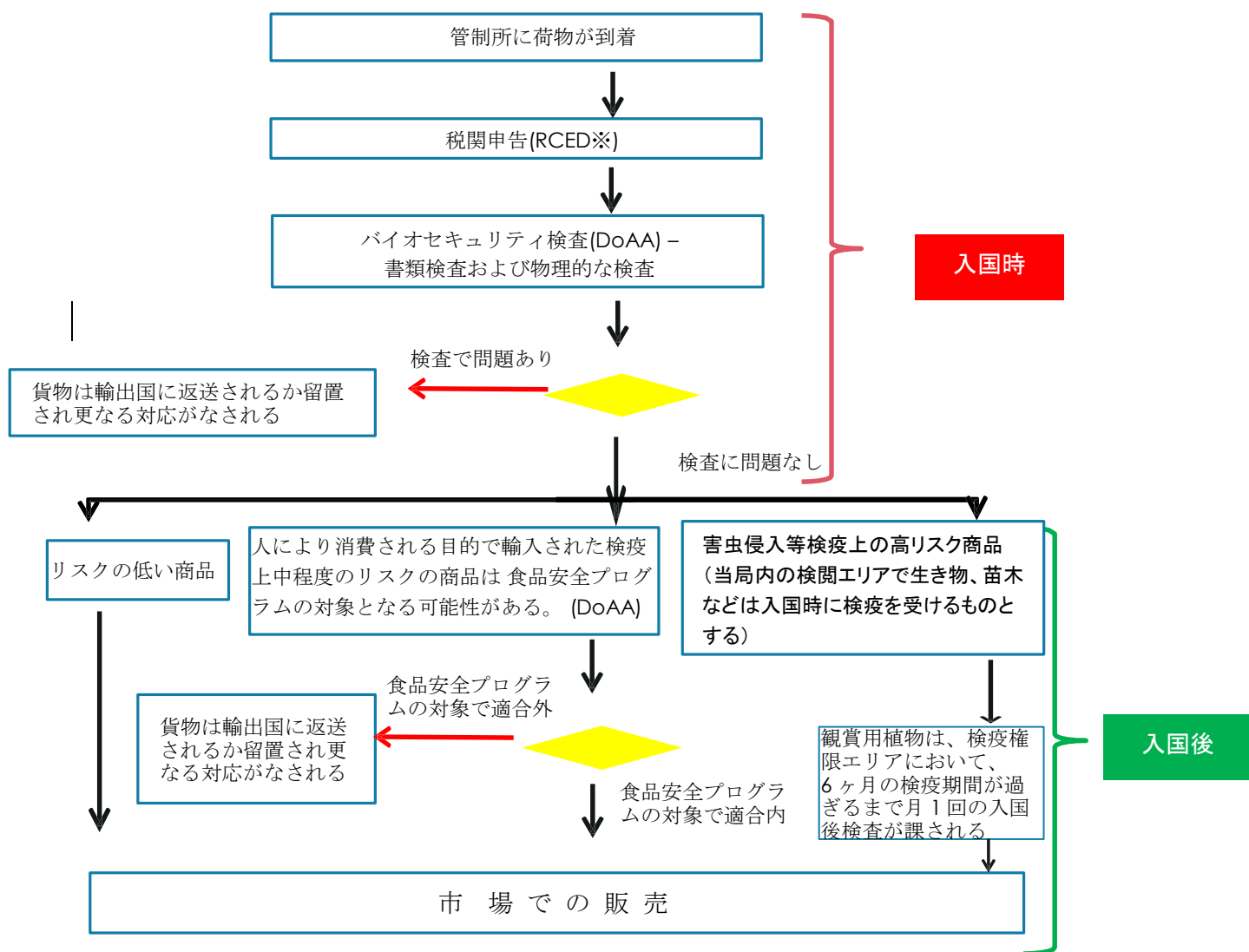
3-1-3 ブルネイ入国時及び入国後の輸入プロセス

ブルネイの入国時に必要な書類は以下のとおり。
 全ての書類は英語で作成されたもので、原本もしくは当局の承認を受けて発行された書類でなくてはならない。

貨物に添付される書類リスト

- ・ブルネイ・ダルサラーム国 産業一次資源観光省 農業部門が発行する有効な輸入許可書
- ・輸出国の権限ある当局により植物輸出検疫を受け許可された有効な証明書（植物検疫証明書）
- ・処理/くん蒸証明書(あれば)
- ・インボイス

図 3-2 ブルネイ入国時および入国後の輸入プロセス



備考: DoAA 産業一次資源観光省農業部門 ※RCED 税関局
 出所: ブルネイ産業一次資源観光省資料 (2016年11月24日) に基づき JETRO 作成

3-1-4 観賞用植物の輸入要件及び検査について

ブルネイにおける観賞用植物の輸入要件及び検査の内容について、以下にまとめる。

図 3-3 ブルネイにおける観賞用植物の輸入要件及び検査の内容（まとめ）

	要 件	検 査
入国前	<p><輸入許可書></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての貨物には有効な輸入許可書またはブルネイ・ダルサラーム国の権限ある当局により承認を受けて発行された輸入許可書の写しが添付されるものとする。 ・ブルネイ・ダルサラーム国政府の権限ある当局により発行された輸入許可書は、1枚につき1つの貨物に有効である。 ・輸入許可書は、東マレーシア サバ州およびサラワク州からの貨物については1カ月、その他の国からの貨物については3カ月間有効である。 	
	<p><輸入前></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞用植物は検疫有害動植物がない地域で生育したものでなければならない。 ・鑑賞用植物は、次の通り処理されなければならない。 <ul style="list-style-type: none"> -32 g/m³の臭化メチルを使用し、2時間くん蒸消毒を行う、または0.2%のマラチオンおよび0.4%のテトラメチルチウラムジスルフィド(TMTD) (または適した殺虫剤または殺菌剤) でスプレーする(もしくはその他の承認された処理も認められる) ・生育培地を伴う鑑賞用植物については、土がついていない有機生育培地を次の通り処理しなければならない。 <ul style="list-style-type: none"> -2 g/m³のホスフィンガスを使用し、72時間くん蒸消毒を行う、または常温で通常気圧のもとで32 g/m³の臭化メチルを使用し、4時間くん蒸消毒を行う(またはその他の承認された処理も認められる) ・木製のもので包装されている場合、以下の処理がなされなくてはならない。 <ul style="list-style-type: none"> -48g/m³の臭化メチルを使用し、24時間くん蒸消毒を行う、または56℃の加熱処理を最低30秒間連続して行うこと。 [または、植物検疫措置(ISPM) No. 15の国際標準に従い承認された処理も認められる] 	

入国時	<p><積み荷・梱包・書類></p> <ul style="list-style-type: none"> ・積み荷には、土、生きている有害生物、有害な雑草および植物くずを入れてはならない。 ・各梱包には、植物の学名および原産国を示す印字ラベルが添付されなくてはならない。 ・入国検査時、輸入者は権限を持つバイオセキュリティ・オフィサーに対して関連書類を通知・申告するものとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・貨物がブルネイ・ダルサラーム国の港に到着した時、輸入者またはその代理人に引き渡される前に、権限を持つバイオセキュリティ・オフィサーにより、検査の目的で、全ての貨物は検査され、書類は調査される。
	<p>入国時には貨物に以下の書類が添付されなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸入許可書 ・植物検疫証明書 ・処理/くん蒸証明書（添付要件があれば） ・インボイス <p><植物検疫証明書></p> <ul style="list-style-type: none"> ・貨物には、輸出日から 14 日以内の日付の、輸出国の権限ある当局により署名または許可された植物検疫証明書が添付されなくてはならない。 ・ブルネイ・ダルサラーム国の権限ある当局により発行される輸入許可照会番号が記載されていること。 ・輸出国の権限ある当局により検疫有害動植物がないことが検査され、証明された貨物であることを保証する植物検疫証明書が、鑑賞用植物の全ての貨物に添付されていること。 ・鑑賞用植物または木製包装の貨物にくん蒸処理が行われた場合、くん蒸証明を添付するとともに、植物検疫証明書にその旨が示されなくてはならない。 ・輸出前に、鑑賞用植物の貨物にその他の検疫処理が行われた場合、植物検疫証明書にその旨が示されなくてはならない。 ・再輸出商品については、植物検疫証明書に原産国が示されなくてはならない。 	<p>→検査で問題がない場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貨物が現在の輸入要件を満たし、検査で生きた有害生物が見つからなかった場合は、輸入者またはその代理人に引き渡されるものとする。 <p>→検査で問題があった場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検査で生きている有害生物が見つかった場合、貨物は輸出国に返送されるか、バイオセキュリティ・オフィサーにより留置され適切な対応が行われるものとする。必要な対応にかかる全費用は輸入者が負うものとする。
入国後		<ul style="list-style-type: none"> ・産業一次資源観光省 農業部門により事前に承認がされた検疫権限エリアにおいて、6 カ月の検疫期間が過ぎるまで月 1 回の入国後検査が課される。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・輸出方針に変更がある場合、または輸出国の有害生物の状況に変更がある場合、もしくは緊急の場合は、農業農産品局の判断により、これらの条件は見直しや修正、もしくは無効となる可能性がある。 ・産業一次資源観光省 農業部門は、荷物が輸出要件の条件を遵守していることを確保するための検査により起こる遅延や費用について、如何なる方法によるかを問わず、責任を負わない。 ・申請者が貨物の所有者でない場合、所有者の代理人による輸出要件プロセスおよび・またはバイオセキュリティの許可については、所有者により提供される委任状が提示されなくてはならない。 	

出所：ブルネイ産業一次資源観光省資料（2016年 11 月 24 日）に基づき JETRO 作成

4. ブルネイに対する日本産植木の輸出可能性について

植栽状況の視察、関係事業者等へのヒアリングを通じて、世界的にも貴重な大自然に囲まれたブルネイの国民は、自然のままの多様な樹木に囲まれて、色とりどりの花を楽しみ、果実を食し、木陰で暑さをしのぐ、そうしたありのままの自然の一部として、樹木の楽しみを実務的に享受しており、作りこんだ造形木といった樹木への美的こだわりや関心は低いとの印象を受けた。

そんなブルネイ国民に、海外から輸入する観賞用植物で人気が高いのが「ラン」である。暑さに強く長く花を楽しめる「ラン」は王室需要も一般需要も高く、輸入本数の7割以上を占めている。他の輸入樹木も、「バラ」や「ブーゲンビリア」「ハイビスカス」等低木の花木が中心で、花に高いニーズと関心があるといえる。一方、樹木は、自国にも豊富に生育しているため、ブルネイにも少ない背の高いヤシなど少量の輸入に限られている。その価格もマレーシア等陸続きの国から安価に輸入が可能である。ブルネイの花き輸入事業者と面談した際、造形の関心よりもまずは価格ありきであったことを考えると、造形への関心の薄さに加え、高価格の日本の植木が受け入れられる可能性は低いと考えられる。

また、現地視察に同行した日本の植木事業者が、熱帯のブルネイの気候に適し、水はけの悪いレンガ土にも耐えられると候補にあげたのは「マキ」や「カイヅカ」であったが、現地にもそれらの類似種が存在しており、木に特別な価値を感じていない国民性のなかで、輸入をしてまで類似種を高価格で購入することは、現段階では非常に困難との印象を受けた。

ただし、現地の高級ホテルの日本庭園向けに日本の造形植木の輸出可能性が認められた。世界中から観光客が訪れる高級ホテルでは本物の日本庭園を作りたいという意識が高い。そういったホテルでの小規模で限定的な需要なら見込みはあると考えられる。また、現地でヒアリングした花き事業者は日本のサボテンに高い関心を持っており、日本の花き関係の情報を広く求めていた。まずは現地事業者に、サボテンを入りに多様な日本の花き情報を提供しつつ、共同で「造形植木」に関してのニーズを掘り起こしていく方法が考えられる。また、毎年2回開催され、15万人の人が訪れるブルネイで最も人気のある総合展示会「Consumer Fair」に日本の植木事業者が参加したり、ブルネイ国民が多く活用するSNSで造形植木に関する情報を拡散していく方法も中長期的な視点で日本の植木の需要をつくるために有効と考えられる。

日本産海外有望農林水産物品目調査研究報告書
～ブルネイ市場における日本産植木の可能性～

2017年3月作成

日本貿易振興機構（ジェトロ）農林水産・食品部 農林産品支援課
〒107-6006 東京都港区赤坂 1-12-32
Tel. 03-3582-8348

禁無断転載